

## 163 律法学者とファリサイ派の人々を非難する No.2

マタイによる福音書 23 : 13~36

・・・・・・前回到続き、ニサンの月の12日(火曜日)の出来事である・・・・・・

13 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ (→回復訳：災いである)。

人々の前で天の国を閉ざすからだ。自分が入らないばかりか、入ろうとする人をも入らせない。

→ (リビング・バイブル) ああ、いまわしいパリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。あなたがたは偽善者です。神の国に入ろうとしている人たちのじゃまをし、自分でも入ろうとはしないのです。

→ 「不幸だ」は、神から見れば拒否されるべきものであることを指し、呪いの言葉ではない。

14<底本に節が欠けている個所の異本による訳文>

律法学者とファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。

やもめの家を食物にし、見せかけの長い祈りをする。だからあなたたちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。†

→ (リビング・バイブル) 町の大通りで、見栄のための長い祈りをし、聖者のようなふりをしながら、未亡人の家を食いものにしています。偽善者たち。

15 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。

改宗者を一人つくろうとして、海と陸を巡り歩くが、改宗者ができると、自分より倍も悪い地獄の子 (→永遠の罰を受ける人) にしてしまうからだ。

→ (リビング・バイブル) そうです。あなたがたのような偽善者こそいまわしいものです。たった一人の改宗者(ユダヤ教に転向する人)をつくるために、どんな遠くへでもせつせと出かけて行くが、結局その人を、自分より倍も悪い地獄の子にしまうのです。

→ 的外れの熱心さ

16 ものが見えない案内人 (→回復訳：盲目な案内者たちよ、新改訳：目の見えぬ者たち、NIV/NKJV : blind guides)、あなたたちは不幸だ。

あなたたちは、『神殿にかけて誓えば、その誓いは無効である。だが、神殿の黄金にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。

→ (リビング・バイブル) 自分の目が見えないのに人の手引きをしようとする者たち。あなたがたの規則では、『神殿にかけて』と誓った誓いは何でもないが、『神殿の黄金にかけて』と誓った誓いは果たさなければなりませんと言います。

→ 優先順位の逆転

17 愚かで、ものが見えない者たち、黄金と、黄金を清める神殿と、どちらが尊いか。

18 また、『祭壇にかけて誓えば、その誓いは無効である。その上の供え物にかけて誓えば、それは果たさねばならない』と言う。

→ (リビング・バイブル) また、『祭壇にかけて』と誓った誓いは破ってもいいが、『祭壇の上の供え物にかけて』と誓った誓いは果たさなければなりませんと言います。

→ 優先順位の逆転の罪

19 ものが見えない者たち、供え物と、供え物を清くする祭壇と、どちらが尊いか。

20 祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上のすべてのものにかけて誓うのだ。

21 神殿にかけて誓う者は、神殿とその中に住んでおられる方 (→神) にかけて誓うのだ。

22 天にかけて誓う者は、神の玉座とそれに座っておられる方 (→神) にかけて誓うのだ。

### 23 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。

**薄荷**（聖書協会共同訳：ミント）、**いのんど**（聖書協会共同訳：ディル）、**茴香**（→口語訳、聖書協会共同訳、回復訳、新改訳：クミン→外觀が似ていて、茴香と混同される）の十分の一は献げるが、律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより（→言うまでもなく、もちろん）、十分の一の献げ物もないがしろにしてはならないが。

→（リビング・バイブル）パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。あなたがたは偽善者です。

自分の畑でとれる、はっかの葉の最後の一枚に至るまで、実にきちょうめんじんに十分の一をささげているのに、律法の中ではるかに大切な正義と思いやり、信仰はおろそかにしています。もちろん十分の一はささげるべきですが、もっと大切なことをなおざりにしては何にもなりません。

→イエスは、什一の献げ物を否定しているのではない。彼らは意味のない細部にこだわりすぎて、より重要な命令や事柄を無視した結果になっていることをイエスは指摘しておられる。

★ 薄荷：ハーブ名：ホースミント (*Mentha longifolia*)、和名：馬薄荷



薄荷

蜜罍の薄荷は、ハーブ名で、ホースミント (*Mentha longifolia*)、別名：馬薄荷、長葉薄荷、和名：ナガバハッカ) とされる。イスラエルの溝、沼地、水路に沿って自生しているシソ科ハッカ属の多年生草 (ハーブ) で、草丈40cm~1mになり、小さな毛で覆われている。葉柄がなく縁がギザギザした葉は長く、縁固力がある。全体に灰緑色で白い微毛がある。穂の形にびっしりつく花は小さな葉がかったピンク色 (シルバー・グレー) である。古代ローマ人、ヘブライ人、ギリシア人などは、薄荷 (ハッカ) を匂いつけや駆風劑 (腸内に溜まったガスを排出する) や、調味料として用いられた。※薄荷は、変種が出来やすく、種類は600種を超えと言われるほど多種多様な種がある。

★ いのんど



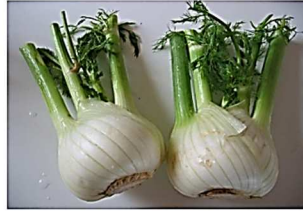
いのんど

種子

いのんど

せり科の一年草または越年草。成長すると草丈40~60cmになり、細い茎には細かく裂開した柔らかな葉 (長さ10~20cm、幅1~2mm程) が互生する。白または黄色の2~9cm程の小さな花を繖形花序 (ふくさんけいかじょ: 多数の花が放射状につくもの) につける。実は4~7mm、厚さ1mmで楕円形扁平で、香気が強い。実は食物の香り付けに、また駆風劑 (腸内にたまったガスを排出させる作用のある薬劑) や香水に用いられた。

★ 茴香（ういきょう）：フェンネル



茴香の鱗茎（葉柄基部が肥大したもの）  
野菜としてタマネギなどのようにサラダや煮物、スープなどに用いられる。  
茎・葉は生食されるが、他にも佃煮、シチューなど肉料理の香味野菜として使用される。

↑茴香（ういきょう）→英語：フェンネル（Fennel）、フランス語：フヌイユ（Fenouil）、イタリアではフィノッキオ（Finocchio）。「茴香」とも書く。  
草丈2mになる大型のセリ科ウイキョウ属の多年草。茎は柔らかい淡緑色、葉は互生して3～4回の羽状複葉で、小葉は羽状（糸状）に細かく分かれている。根近くの葉には長い葉柄があるが、茎につく葉は短く、葉柄が鞘状になって茎を抱いている。黄色い小さな花を多数つけます。  
実は長さ8mm、幅2mmの長円柱状です。  
若い葉および種子（フェンネルシード）は、甘い香りと苦みが特徴で、植物全体が香り高く、そのため料理などにもよく用いられる。  
実を乾燥した生薬は、食欲・消化・血行促進、利尿効果、健胃整腸などの効果がある。ウイキョウの実は「茴香」、「小茴香」、「フェンネルシード」の名で流通している。  
ウイキョウを粉末にしたものは、スパイスとして、魚肉のソースなどの風味添えに用いる。  
※歴史上もっとも古い作物の一つとされる。  
※漢方方剤の安中散（あんちゅうさん）や、太田胃散（漢方+西洋薬の処方）、口中清涼剤の仁丹などに使われている。

出典：聖書にある自然 ©H.Taniguchi

24 ものの見えない案内人、あなたたちはぶよ一匹さえも漉して除く（→気にして取り出す）が、（汚れた←レビ記11：4）らくだは飲み込んでいる。

→ぶよ（蚋）：ブユの別称で、ハエに似るが小さい（2～8mm）。雌は人畜から吸血し、刺されるとはれる。  
→23節と同様に、律法学者たちとファリサイ派の人々は意味のない細部にこだわりすぎて、より重要な命令や事柄を無視した結果になっていることをイエスは指摘しておられる。

25 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。

杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。

26 ものの見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。

→外面へのこだわり（内側の偽善と不法を覆い隠している） 真の信仰は心の中を清める。

27 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。

白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。

→墓はうっかり触られないように、目立つように白で塗られた。墓に触れた人は不浄と見なされ、礼拝に参加する前に、清めの儀式に行かねばならなかった（民数記19：16）。

→外面へのこだわり（内側の偽善と不法を覆い隠している）

28 このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えながら、内側は偽善と不法で満ちている。

29 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。

預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしているからだ。

30 そして、『もし先祖の時代に生きていても、預言者の血を流す側にはつかなかったであろう』などと言う。

→（リビング・バイブル）『私たちには、先祖がしたような、こんな恐ろしいまねはとてできません』と語っています。

→そのような彼らが、既にイエスを何とかして殺そうと決めている。これをイエスは知っておられた。

31 こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫であることを、自ら証明している。

32 先祖が始めた悪事の仕上げをしたらどうだ。33 蛇よ、<sup>まじし</sup>蝮の子らよ、どうしてあなたたちは地獄の罰を免れることができようか。

34 だから、わたしは預言者、知者、学者をあなたたちに遣わすが、あなたたちはその中のある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと追い回して迫害する。

→(リビング・バイブル) わたしがあなたがたのところに、預言者や、聖霊に満たされた人、神のこゝばを書き記す力を与えられた人たちを遣わすと、あなたがたは彼らを十字架につけて殺したり、会堂でむち打ったり、町から町へと追い回して迫害したりします。

35 こうして、正しい人アベルの血から、あなたたちが聖所と祭壇の間で殺したバラキア(→正:ヨヤダ)の子ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の血はすべて、あなたたちにふりかかってくる。

→(リビング・バイブル) こうして、義人アベルから、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤに至るまで、正しい人たちが流したすべての血について、あなたがたは有罪とされます。

→アベルは最初に殺された殉教者(→創世記4:8)、ゼカルヤは最後に殺された殉教者(→歴代誌下24:20~21)として聖書に記されている。

→創世記4:8

カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。

→歴代誌下24:20~21

神の霊が祭司ヨヤダの子ゼカルヤを捕らえた。彼は民に向かって立ち、語った。

「神はこう言われる。『なぜあなたたちは主の戒めを破るのか。あなたたちは栄えない。あなたたちが主を捨てたから、主もあなたたちを捨てる。』」ところが彼らは共謀し、王の命令により、主の神殿の庭でゼカルヤを石で打ち殺した。

【参考】ヘブライ語聖書(現代語訳 39 書とは異なっている→創世記~歴代誌)

1. 律法(トーラー) 5巻→①創世記、②出エジプト記、③レビ記、④民数記、⑤申命記

2. 預言者(ネビーイーム) 8巻

1. 前預言者4巻→①ヨシュア記、②士師記、③サムエル記、④列王記

2. 後預言者4巻→⑤イザヤ書、⑥エレミヤ書、⑦エゼキエル書、⑧12小預言書(ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼパニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書)

3. 諸書(カトビーム) 11巻

1. 真理(エメト)3巻→①詩篇、②箴言、③ヨブ記

2. 巻物(メギロト)5巻→④雅歌、⑤ルツ記、⑥哀歌、⑦伝道者の書、⑧エステル記

3. その他3巻→⑨ダニエル書、⑩エズラ記(ネヘミヤ記を含む)、⑪歴代誌(I, II)

⑩書名の表記は、旧表記です。→ゼパニヤ書、詩篇、伝道者の書

36 はっきり言うておく。これらのことの結果はすべて、今の時代の者たちにふりかかってくる。」

→(リビング・バイブル) そうです。何世紀にもわたって積み重ねられてきたこれらの報いは、今この時代の者たちの上に一度に降りかかってくるのです。

## 【参考】聖書は何語で書かれたか

### ▶旧約聖書はヘブライ語で記されている。

ごくわずかの部分はアラム語である（エズラ記 4:8～6:18、7:12～26、ダニエル書 2:4～7:28、その他）。イスラエル民族はカナン（パレスチナ）に定着してからヘブライ語を使用した。後にアラム語が使われるようになった。このアラム語はアッシリア、バビロニア、ペルシアで用いられていた。

アラム語は次第にイスラエルに浸透するが、バビロニア捕囚はそれに大きな役割を果たした。

ギリシア支配時代以降、ヘブライ語は聖書その他の宗教文書に用いられ、一般にはアラム語が日常化していった。イエス時代のパレスチナではアラム語が用いられていた。福音書記者はイエスの語られた言葉の中に、ごく少数ではあるがギリシア語と並行してアラム語を保存している。「タリタ、クム」（マルコ 5:41）、「エッフアタ」（同 7:34）、「アッパ」（マルコ 14:36、ローマ 8:15、ガラテヤ 4:6）、「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」（マルコ 15:34）がそれである。

### ▶新約聖書はギリシア語で記されている。

このギリシア語はヘレニズム時代に地中海世界で共通語となった「コイナー」※<sub>1</sub>と呼ばれるギリシア語で、古典ギリシア語とは異なるものである。使徒たちによってキリスト教が伝えられていったのは、このコイナー・ギリシア語の世界であったので、新約聖書はコイナー・ギリシア語で記されたのである。

ヘレニズム文化の中心はエジプトのアレクサンドリアであったが、この地で翻訳された旧約聖書のギリシア語訳はコイナー・ギリシア語であった。この聖書は「セプトゥアギンタ（70人訳）」と呼ばれている。新約聖書に引用されている旧約聖書はこの「セプトゥアギンタ」※<sub>2</sub>によっている。

参考：日本聖書協会 翻訳史 02 [聖書は何語で書かれたか](#)

※1：コイナー koinē (dialektos)

BC 四世紀後半、ギリシア語のアッティカ方言などに基づいてできたギリシアの共通語。マケドニア帝国の公用語として広く話された。新約聖書の言語で、現代ギリシア語の母体。

※2：セプトゥアギンタ Septuaginta

旧約聖書の最古のギリシア語訳で「七十人訳聖書」もしくは「ギリシア語訳旧約聖書」ともいう。

BC 3世紀プトレマイオス2世フィラデルフォスの命により72人のユダヤ人の学者が72日間で完成したところからこの名がある。しかし実際は少数集団によってエジプトのアレクサンドリアで、ディアスポラのユダヤ人の要求に応じて、まず律法の部分が訳され、その後1世紀かけて現行正典の大部分が訳された。原典にない多くの文書も含まれて区分配列も現行聖書とは異なっている。諸古代語訳中、最も重要なもので、ヘブライ語原典の重要資料であるだけでなく、コイナー・ギリシア語文書として言語学的にも貴重である（参考：コトバンク「[セプトゥアギンタ](#)」）。